

## 視点(1647)

### マーケットデザインとノーベル経済学賞!!

(成果の概念編)

2012年のノーベル経済学賞は、アメリカのハーバード大学の**アルビン・ロス教授**とカリフォルニア大学の**ロイド・シャプレー名誉教授**に贈られました。毎日新聞2012年10月16日号より要約すると次の通りです。

授賞理由は「**安定配分理論とマーケットデザインの実践**」で、シャプレー氏はお互いに駆け引きしながら意志決定する経済主体を分析するゲーム理論を応用し、「**ゲーム＝シャプレー・アルゴリズム(計算方法)**」と呼ばれる組み合わせ(マッチング)の手法を開発した。この手法を使うと、就活生と企業のような2つの集団の双方が全体として最も満足度が高くなるような組み合わせが決められます。一方、ロス氏は実践経済学が専門で、この手法を実際の社会制度に導入できるように工夫し、アメリカでは新人医師が研修先の病院を選んだり、小中高生が公立学校を選んだりする際に活用されるほか、日本の研修医マッチングも導入されている。伝統的な経済学では価格メカニズムが働くことで、自然に需要と供給が釣り合うと考えられてきたが、現実には不本意な組み合わせや受給の mismatch が多発するなど「**市場の失敗**」が起こる。両氏の業績は、こういう問題が発生しにくい最適な資源配分の仕組みを設計した点にある。

また、日経新聞「経済教室」2012年10月9日掲載の小島武仁氏(スタンフォード大学助教授)によると、マッチング理論とその応用分野である「**マーケットデザイン**」は、まさに経済学の考え方を刷新し「**人と人**」、「**モノと人**」を、どのように組み合わせれば良いのかを研究するものである。すなわち、伝統的経済学では市場や社会制度を「**与えられたもの**」として分析してきたのに対し、マーケットデザインでは経済制度を「**設計するもの**」と考えているのが特徴である。例えば、男女の結婚において、男性は女性たちに対する希望順位(好みの順位)を持ち、女性も男性達に対する希望順位を持つ。マッチング主催者の目的は、男女のグループをうまく組み合わせるべく望ましい結果を得ることである。当然ながら全員が希望通りの結婚相手を見つけられるとは限らない。そこで「**望ましい結果としてマッチングの安定性**」という性格を考えた。「安定している」というのは「**男性Aは、現在の結婚相手より女性Bが好きで、女性Bも現在の結婚相手より男性Aが好きだ**」という不幸な組み合わせがないことを言う。

両氏の功績は、「**どんなに人々の好みが多様でも、安定マッチングが必ず存在する**」ことを示したことである。この理論は、最初(1962年)以降20年間は主に数学者としての分野であったが、後に1984年に経済学的な価値に気づき理論を発展させた。

我々、流通業界に携わる者にとって「**マーケットデザイン**」という概念は非常に大切です。以下、私の考え方を示します(六車流:マーケティング理論)。

- ①マーケットデザインは「**モノと人**」とのマッチングであり、流通業界では「**売り手と買い手のマッチング**」及び「**買い手と商品のマッチング**」となります。
- ②マーケットデザインでは、従来の市場が与えられたものであるのに対し、「**設計するもの**」として考えられています。流通業界では「**マーケットインとプロダクトアウト**」の考え方であり、21世紀型ビジネスは大変化を伴う進化であるためプロダクトアウト(マーケットの潜在ニーズを発生源にして売り手が実現化)によるマッチングとなります。
- ③マッチングデザインは、最適なるマッチングではなく**マッチングの安定性**(相対的満足度のあるマッチング)の考え方です。流通業界においても、完全に客を満足させる概念や競争相手と完全に異質化させる概念ではなく、「**3割差異化・特化(3割は完全満足) 7割総合化(7割は相対的満足)**」の概念が効果の最大化をもたらすマッチングです。

いずれにしても、我々流通業に携わる者は「**マーケットデザイン**」(マーケットをデザインする)の考え型が必要です。

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>+</sup>  
代表 六車 秀之